民報
おうしゅう
読者版

発　行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目59
Tel 24−2021
Fax 24−2049

8月15日の終戦記念日 奥州市31か所で訴え!

今こそ、世界に誇る日本国憲法を生かした日本をご一緒につくりましょう!



江刺では、千葉敦市議が訴え

95歳のSさんも元気にマイクを握りました!

水沢・佐倉河地区では千田美津子議員が訴え

水沢・姉体地区では佐藤美雪市議が訴え。家から出て聴いて下さる方も見受けられました。

胆沢では今野裕文市議が訴え

81回目の終戦記念日を迎えた8月15日、日本共産党奥州市委員会は、市議団を先頭に11名が参加し、市内各地で街頭宣伝行動を行いました。

「日本が行ったアジア・太平洋戦争により、二千万人を超すアジアの人々と、三百十万人以上の日本国民が犠牲となった。戦争の悲劇を二度と繰り返さないため、日本共産党は皆さんと力合わせて頑張ります」と訴えました。

◇新医療センター問題

奥州市地域医療検討会議の「最終とりまとめ」を参考に「(仮称)奥州市地域医療グランドデザイン」を策定する…市長

8月17日に開催された議員全員協議会において、郷右近浩市長は、地域医療に係る進捗状況として次の3点(①奥州市地域医療検討会議の開催状況 ②総合水沢病院の耐震補強について ③新医療センター基本設計業務の契約解除に向けた協議状況)について報告しました。

地域医療検討会議の開催について、郷右近市長は、「この会議を意思決定機関ではなく、医療関係者の意見交換をもって、今後の在り方検討に役立てようとする」としています。しかし、8月24日の会議後に「中間とりまとめ」を行い、すべての会議終了後に「最終とりまとめ」を公表し、この最終とりまとめを参考として**【(仮称)奥州市地域医療グランドデザイン】**を策定すると説明しました。市長等は、最終的には、市民の意見も聞くといいますが、「この地域の医療がどうあるべきか?」の議論に、そもそも最初から市民や患者等の意見を聞かないという姿勢に疑問を感じます。本当にこのような進め方で良いのでしょうか?

総合水沢病院の耐震補強は、↓透析センターを移設し、患者の入院・外来診療を継続しながら耐震補強のみを実施する
(大規模改修はやらない)

この日、市当局は、総合水沢病院の耐震補強を実施する方針を明らかにしました。説明では、●耐震補強のみを実施し、多額で工期のかかる大規模改修は行わない。●手術室の移設は困難なため、検査手術棟についても耐震補強を行う。●旧精神科棟は、建物を取り壊し、透析センターを本館に移設する。●工事は、患者の入院や外来診療等を継続しながら進める。●設計事業者に調査業務を発注する等というものです。千田美津子議員が、経費等について質問。

市当局は、これらに係る費用等がどれくらいかかるか等、未定としながらも、平成24年当時の調査では、本館だけで2億2千万円だったが、単価のアップと透析センターの移転など、相当な金額がかかると想定している等と述べました。

5農民組合が市長に要請



8月7日、岩手農民連の胆沢、江刺、衣川、前沢、水沢農民組合の代表が、郷右近浩市長に「地域農業を守る対策を求める要請」を行いました。

米価の大幅な下落が予測される中、国に備蓄米の買戻しをするよう求めるとともに、いわゆる「担い手」と言われる新規就農者だけでなく、兼業農家の後継者の農業承継する新規就農者にも支援を行い、「離農」を防止する対策、農業機械購入支援を行うことなどを求めました。日本共産党の今野裕文市議団長が同席しました。

誘い合ってご参加ください!

シンポジウム
2026 平和のつどい
戦争止める!憲法守る!
〜私たちが平和をつくる主人公に〜

資料代 200円

2026 8/23(日) 14:00〜16:00
水沢地区センター・多目的ホール

パネリスト
大内國芳（手代木地域振興局長）
憲法を希望に〜「平和教育」を守り、支える国民的共同を

パネリスト
吉田敏恵（岩手県生活協同組合連合会専務理事）
平和のための不断の努力
〜生協人・女性・親としてぼちぼち続けてきたこと〜

パネリスト
國分博文（岩手県革新懇事務局長）
思想・信条を超えて国民監視の「スパイ防止法」に反対する岩手県民の会結成のその経過と意義

コーディネーター
金野耕治（胆江労連特別幹事 元いわて生協議長）

主催/2026平和のつどい実行委員会　連絡先/胆江民商内:電話24-0716